

エリザベスは チョコバーが大好き

⑤

小川典子

た

べものがまずいって
本当ですか。英国に
ついて最も多く受ける質問で
ある。生きるために食べる。
英国・食の基本その1だ。

英国には、歯ごたえの良い

ものをほおぼってパリパリ食
べる習慣はない。野菜は色が
変わるまで煮て、きちんとナ
イフとフォークを構える。前
日のパンを焼きなおしたトー
ストは皿で縦に二分し、大口
を開けずに食する。英国には
良きテーブルマナーがある、
と評される所以、食の基本そ
の2である。

音楽家の生活は旅から旅。
演奏旅行では、行く先々で出

されるものに食生活のすべて
をゆだねる。経験が積み出し
た、食いしん坊ピアニストに
よる基本その3。それは「階
級が上にいくほど食事がつま
しくひかえめになる」。

もともと肥沃な土地とは言
えない英国では、食事は楽し
むよりもむしろ、生きるため
の原始的行為と考えられてき
た。結果、料理より、エレガ
ントにテーブルを演出する文
化が優先された。英国の子ど
もは、両ひじを胴体につけな
い、口で音を立てない、など作
法を徹底的に教えこまれる。

労

働者階級の面々は、
生きるために食べる

スタッフィング・マイ・フェイス

大切さを切実に感じてきた。
だから、隣人や音楽家をもて
なすとき、食卓に乗りきらな
いほどのごちそうを用意す
る。わぁおいしい! 「スタ

ツフィング・マイ・フェイ
ス」だわ! 「顔にモノを詰
めこむ」。意外なほど直接的
なこの言葉は、おいしい食事
に思わず心を奪われてしまっ
た時、イギリス人

が最も多く使う慣
用語である。

では、エリザベ
ス女王が「スタッ
フィング・マイ・
フェイス」と叫
びながら、王室名
物きゅうりサンド
イッチを「顔に詰
めこんで」いるだ
ろうか。階級が上
がるほど調度品や
食器が豪華になる

一方、皿に盛られ
るごちそうが小さ
く単純なものにな
っていく理由が、
わかるような気が
する。演奏旅行

中、大邸宅で薄いパンに炒り
卵一つの夕食、庭園で小さな
カップ一杯のスープを出され
たこともある。そしてやって
来た。演奏会の舞台はウィン
ザー城、の日である。

洗

面所へ行くにも付き
添われるほど保安に

厳しいウインザー城だが、エ
リザベス女王は気前良く音楽
家に広間を貸し出してけれ
る。本番前、警察犬がパトロ
ールするなか手渡されたのは
軽食。女王様お墨付きかと色
めきたって楽屋に駆け込ん
だ。呼吸を整え、開けた紙袋
から出てきたのは、オレンジ
ジュースと、一本のチョコバ
ー。エリザベス以上の上流
は、いない。チョコバーをか
じりながら、確かにこれは大
口を開けずに食べられるわ、
と大いに納得した。

(おがわ・のりこ ピアニ
スト、毎週木曜掲載)



室内楽コンサートのリハーサル(橋爪拓治撮影)